



ヘルメットをかぶろう

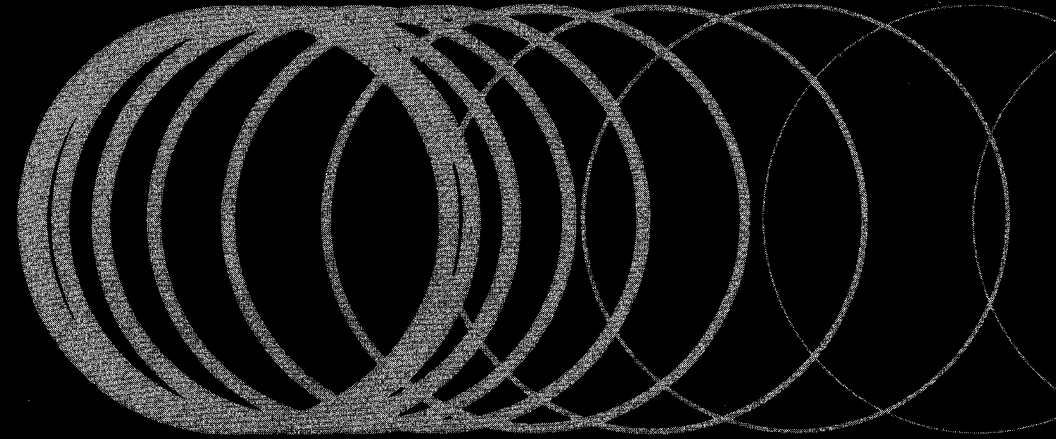
●必ず調整を十分に行い ●正しく調整で安全運転をしよう

取扱説明書をよく読んで
安全な運転をしましょう。



HONDA

本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2-1-1



30GS3600
00X30-GS3-6003

Ⓝ 509012 G

ホンダ ジャズ 取扱説明書

ご案内

このたびはホンダ車をお買いあげいただきありがとうございました。

お車や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた〈ホンダ販売店〉または下記の〈ご相談窓口〉にお気軽にお申しつけください。

なお、各地区のホンダ二輪代理店でもお受けいたしております。

名 称	電 話 番 号	郵便番号	所 在 地
本田技研工業株式会社 お客様相談部 東 京	03(423)4211	107	東京都港区南青山2-1-1
本田技研工業株式会社 お客様相談部 札 幌	011(781)2929	065	北海道札幌市東区本町2条10-2-29
本田技研工業株式会社 お客様相談部 仙 台	022(288)6561	983	宮城県仙台市若林区六丁の目西町1-10
本田技研工業株式会社 お客様相談部 名古屋	052(363)2929	454	愛知県名古屋市中川区五月通4-22
本田技研工業株式会社 お客様相談部 大 阪	0720(29)7755	572	大阪府寝屋川市池田中町2-12
本田技研工業株式会社 お客様相談部 福 岡	092(962)2466	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

- 所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。
- ホンダ二輪代理店につきましては別冊「整備手帳」の住所一覧をご覧ください。

ご乗車の前に

お買いあげになりましたら、ホンダ販売店にて「取扱説明書」「整備手帳」「セーフティポイント」を受け取り、下記の説明を受けてください。

- ★お車の正しい取扱いかた
- ★保証内容と保証期間
- ★車両受領書・保証書受領書記入・捺印
- ★点検・整備について

- 改造にはご注意を。

車の構造や機能に関する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることとなります。このような改造は、法律に触れることは勿論、車の保証を受けられないので改造はしないでください。

- 車を購入された当初は、いろいろ注意をはらって運転しますが、少し慣れてくるとこれらの注意を忘れがちになり、事故を起こす場合があります。

車に乗る時、いつも心がけなければならない重要な注意事項を書いた「安全項目ラベル」が車に貼ってありますので、これらの注意をいつもお守りください。

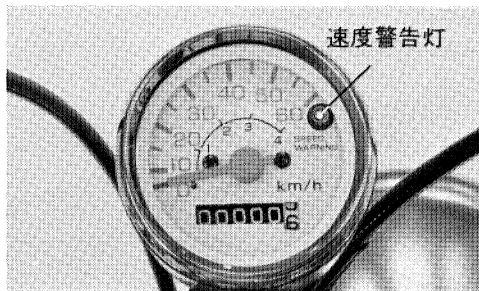
- ヘルメットをかぶりましょう。
- 法定速度を守りましょう。
- マフラは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。
- 定められた点検整備を励行しましょう。

- 車両の仕様、その他変更により、本書の写真および絵が実車と異なる場合がありますのでご了承ください。
- ジャズは、1人乗りです。
2人乗りはできません、ご注意ください。

あなたのお車には運輸省の指導により、スピードメータ部に車の速度が30km/hを越えると注意をうながす速度警報装置（点滅式）が装備されています。

運転に際しましては下記の内容を十分ご理解のうえ、正しい取扱いと安全運転を心がけてください。

- あなたのお車の法定最高速度は30km/h。
- 2人乗りはできません。
- ルール・マナーを守って安全運転を心がけましょう。
- お出かけ前の点検をお忘れなく。
- 定期点検は、必ず受けてください。
- 「セーフティポイント」をよくお読みください。



目次

各部の名称	6	走りかた	21
各部の説明と取扱い	8	ブレーキの使いかた	23
メータ類	6	注意事項	24
ランプ類	9	運行前点検・定期点検	25
メインスイッチ	10	運行前点検	26
ライティングスイッチ	11	前日の異状箇所の点検	27
ヘッドライト切換えスイッチ	11	ブレーキの点検	27
ウインカスイッチ	12	タイヤの点検	28
ホーンボタン	12	エンジンオイル量の点検	30
ハンドルロック	13	燃料の量の点検	30
ヘルメットホルダ	14	灯火装置、方向指示器の点検	31
書類入れ・携帯工具入れ	15	後写鏡の写影の点検	31
フェューエルコック	16	自動車登録番号標(ナンバプレート)の汚れ	
ガソリンの補給	17	損傷の点検	31
正しい運転操作	18	反射器の汚れ・損傷の点検	31
エンジンのかけかた	18	6 か月点検	32
チェンジのしかた	20	かじ取りホークの点検	33

ブレーキの点検	34	エンジンオイルの補給	55
タイヤの点検	36	ドライブチェーンの給油	57
バッテリー液量の点検	38	色物部品をご注文のとき	58
クラッチの点検	39	エンジンが始動しないとき	59
ドライブチェーンの点検	40	主要諸元	60
エアクリーナエレメントの点検	41	サービスデータ	62
エンジンオイルの点検	42	配線図	折込
燃料漏れの点検	43		
灯火装置、方向指示器の作用の点検	44		
シャシ各部の給油脂状態	45		
簡単な整備	46		
ブレーキペダルの遊びの調整	47		
クラッチレバーの遊びの調整	48		
バッテリー液の補給	49		
バッテリーターミナル部の清掃	51		
ヒューズの交換	52		
エアクリーナエレメントの清掃、交換	54		

■各部の名称

スピードメータ

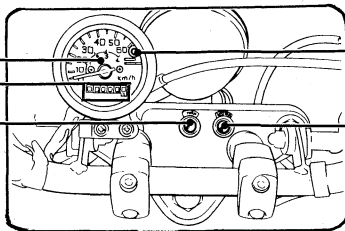
オドメータ(p. 8)

ウインカパイロットランプ(p. 9)

タンクキャップ
(p.17)

バッテリー
(p.38)

オイルレベル
ゲージ
(p. 30)



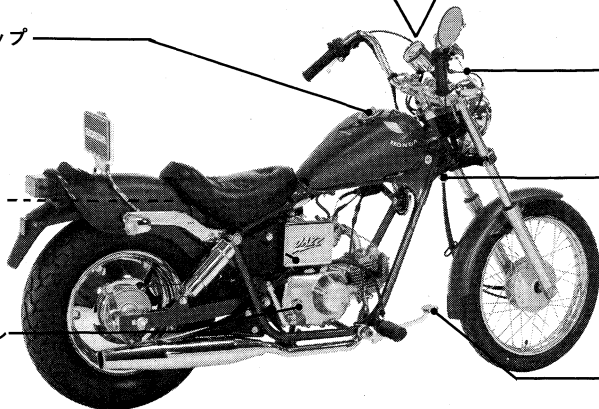
速度警告灯(p. 8)

ニュートラル
パイロットランプ(p. 9)

前輪ブレーキレバー

ハンドルロック(p.13)

後輪ブレーキ
ペダル



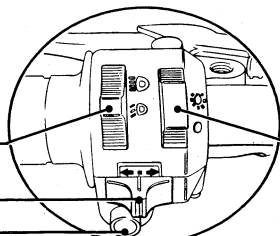
ヘッドライト切換え
スイッチ(p.11)

ウインカスイッチ(p.12)

ホーンボタン(p.12)

クラッチレバー

チェンジペダル



ライティング
スイッチ(p.11)

フューエルコック
(p.16)

メインスイッチ
(p.10)

ヘルメットホルダ
(p.14)

チョークレバー
(p.18)



.....は見えない部分を示します。

■各部の説明と取扱い

●メータ類

スピードメータ

走行しているときの速度を示します。

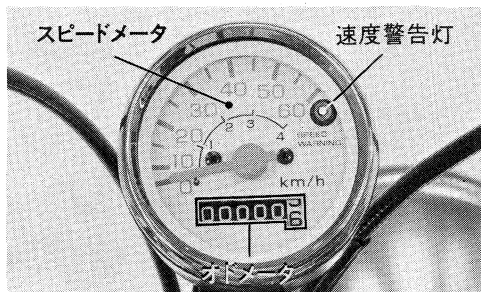
オドメータ

走行した総距離を km の単位で示します。

白地に黒数字は100m の単位です。

速度警告灯

速度が30km/h を越えると点滅します。



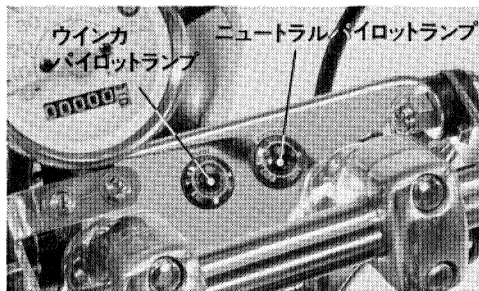
●ランプ類

ニュートラルパイロットランプ

メインスイッチのキーが"ON"でチェンジがニュートラルのとき点灯します。

ウインカパイロットランプ

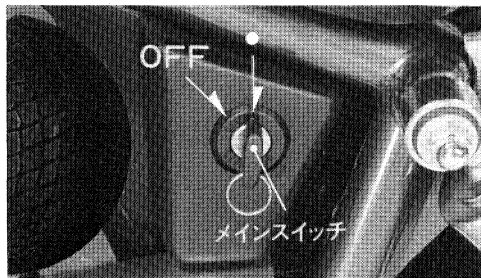
ウインカが作動しているとき、点滅します。



●メインスイッチ

メインスイッチは、電気回路の断続を行います。

キーの位置	作 用	キーの脱着
●	始動・昼夜間走行 ホーン、ウインカランプ、 ストップランプ、ヘッド ライトなどが使える	抜けない
OFF	停 止 (電気回路は全部遮断する)	抜ける



注意

- ・車をはなれるときは、ハンドルロックをかけて必ずキーを抜いてお持ちください。
- ・走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。
メインスイッチのキーを「OFF」の位置にすると電気系統は作動しません。
走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながる恐れがありますので必ず停車してから操作してください。

●ライティングスイッチ

エンジンを始動し、ライティングスイッチを操作するとヘッドライト、テールライト、メータ照明ランプが点灯します。

☉……………点灯 ●……………消灯

●ヘッドライト切換えスイッチ

ヘッドライトの照射角を上下に切換えるスイッチです。

☉D 遠くを照らしたい場合に使用します。

☉D 対向車のあるとき、市街地走行など上向きが不適當なときは、下向きにしてください。



●ウインカスイッチ

右左折するときや、進路変更する場合にはウインカで合図します。

《使いかた》

メインスイッチのキーを“ON”にして、ウインカスイッチで行います。

← ……左折

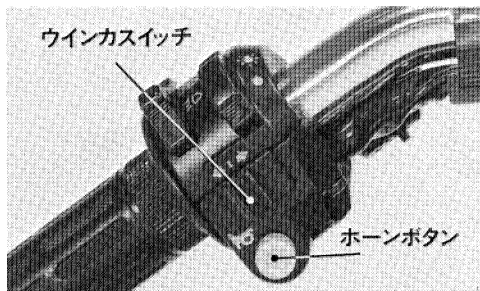
→ ……右折

注意

- ・バルブ(電球)は、正規のワット数以外のものを使用しますと、ウインカが正常に作動しなくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。
- ・ウインカスイッチは自動的に戻りません。使用後は、必ずもとに戻してください。他の車の迷惑になります。

●ホーンボタン

メインスイッチのキーを“ON”にしてホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



●ハンドルロック

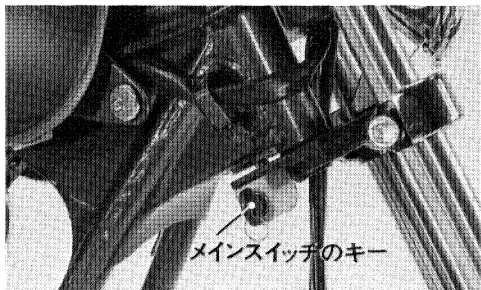
盗難予防のため、車を離れるときは必ずハンドルロックをかけましょう。

《かけかた》

1. ハンドルを左に切ります。
2. ハンドルロックにメインスイッチのキーを差し込みます。
3. キーを右に180°回します。ロックがかかりにくい場合は、キーを回しながら多少ハンドルを左右に動かしてください。
4. キーを抜きます。

注意

- ・ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを軽く左右に動かして確認してください。
- ・交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。



《外しかた》

かけかたの逆の要領で行います。

注意

- ・走行前は、ハンドルを左右に切って切れ角が左右均等であることを確認してください。

●ヘルメットホルダ

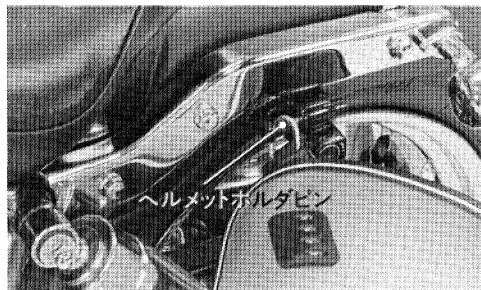
ヘルメットホルダを利用しますと、車を止めた時ヘルメットを持ち歩く必要がありません。また、ロックができますから盗難を予防します。

《使いかた》

1. メインスイッチのキーを使ってロックを解除します。
2. ヘルメットホルダピンにヘルメットの金具をかけ、ロックします。

注意

- ・ヘルメットをヘルメットホルダにつけたまま走行しないでください。つけたまま走行すると車の部品に損傷を与えたり、後輪の回転を妨げることがあります。またヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

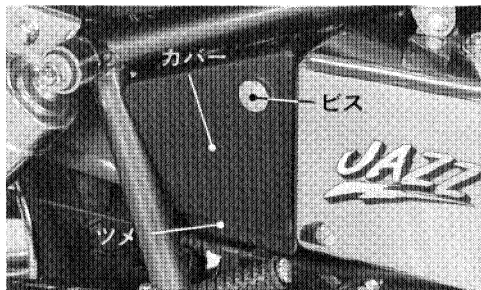


●書類入れ・携帯工具入れ

バッテリーカバーの後方に書類・携帯工具入れがあります。

取扱説明書や整備手帳、携帯工具等は、ここに保管しましょう。

カバーは、ビスを外し、カバーを下に押ししてツメを外して、取外します。



●フューエルコック

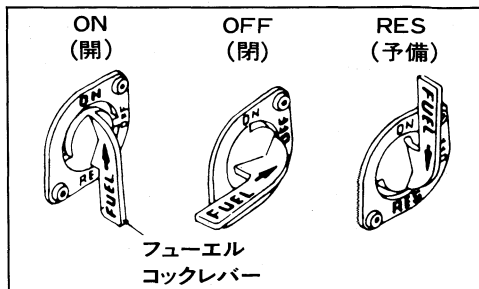
レバーの矢印がそのときの位置を示します。

ON……… エンジンをかけると、キャブレターにガソリンが流れます。

OFF……… 長期保管や燃料系統の点検・整備を行うとき、この位置にします。

RES……… 予備燃料です。(容量は約1.3ℓです)
"ON"で走行中燃料がなくなったらこの位置にします。早目にガソリンを補給してください。

補給後は"ON"に戻してください。
戻し忘れると、走行中に予備燃料がなくなり走行できなくなります。

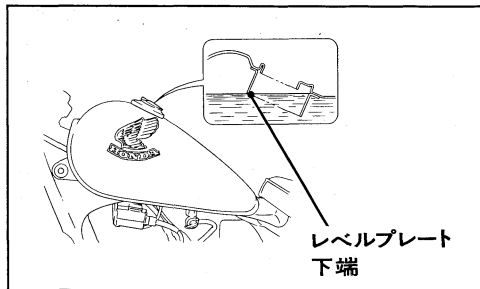
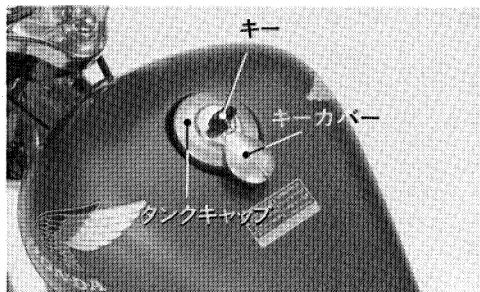


●ガソリンの補給

- ・キーカバーを開けて、メインスイッチのキーを差し込み右に回すとタンクキャップが開けられます。
- ・ガソリンは注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。(無鉛ガソリン)
- ・閉じるときは、手で確実に押してメインスイッチのキーを抜いてください。
タンクキャップがロックされないと、メインスイッチのキーは抜けません。

注意

- ・補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。
- ・ガソリンをレベルプレート下端以上に入れるとキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出ることがあります。
- ・タンクキャップは、確実にしめてください。



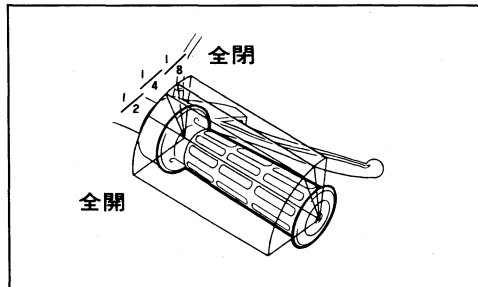
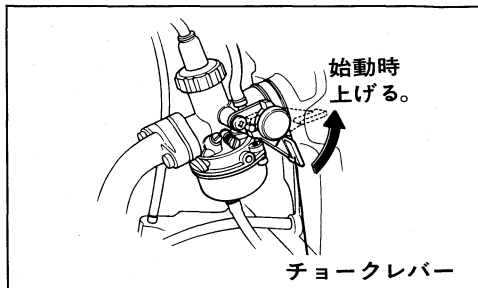
■正しい運転操作

●エンジンのかけかた

1. フューエルコックレバーを“ON”にします。
2. メインスイッチを“ON”にします。
3. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラルランプで確認してください)
4. チョークレバーをいっぱいに上げます。
エンジンが暖まっているときは、チョークレバーを使用する必要はありません。
5. スロットルグリップを $\frac{1}{8}$ から $\frac{1}{4}$ ぐらい開き、キックします。

通常の場合これでエンジンがかかります。
(エンジンがかからないときは、59ページ記載の要領で確認してください。)

6. エンジンがかかったら、チョークレバーを徐々に戻し、回転がスムーズになるまで暖機運転し、チョークレバーを完全に戻してからスタートします。



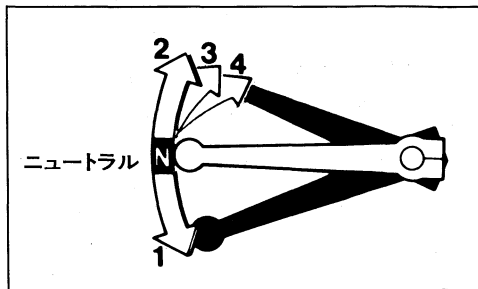
注意

- ・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、せまい場所での始動は避けてください。
- ・無用の空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジンにも悪影響を与えます。
- ・チェンジが入った状態で始動すると、飛び出しや転倒することがあります。必ずニュートラルを確認してから始動してください。

●チェンジのしかた

チェンジは、右図のような4段リターン式です。

- ・変速は、スロットルグリップを一旦戻してクラッチレバーを完全に握ってから行います。
- ・軽くつま先で行い、ペダルにコツンと足ごたえのあるまで確実に操作してください。無理をすると、チェンジ機構を痛める原因となります。



●走りかた

- ・走行前に、サイドスタンドは完全に納まっているか確認してください。
- ・サイドスタンドの動きがスムーズでないときは、サイドスタンド取付部の給油脂状態を確認してください。(45ページ参照)
- ・車のスピードに応じてギヤを切換えることが必要です。
平坦地における各ギヤ位置での速度範囲は右の表を参考としてください。
- ・不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命をのばします。

	速度範囲
1 速	0～18km/h
2 速	10～33km/h
3 速	15～47km/h
4 速	20km/h 以上

注意

- ・発進は、できるだけ静かに行いましょう。
- ・走行中に異音や異常を感じたときは、ただちにホンダ販売店で調べましょう。
- ・法定速度を守って走りましょう。

《シフトダウンのしかた》

追い越しをするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンをすると加速力が得られます。

あまり高い速度で行うと、エンジンの回転が上がりすぎて、エンジン、ミッションに悪影響を与えます。

右表の速度内で行ってください。

	シフトダウン可能限界速度
4 速→3 速	45km/h 以下
3 速→2 速	30km/h 以下
2 速→1 速	15km/h 以下

●ブレーキの使いかた

- ・ブレーキは、前後輪を同時に使いましょう。
- ・不必要な急ブレーキは避けましょう。

注意

- ・前輪ブレーキまたは後輪ブレーキのどちらか一方のブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。
- ・雨天走行や路面が濡れている場合、急激なブレーキをかけるとタイヤがスリップして転倒の原因になることがあります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。
- ・連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなる恐れがありますので避けてください。

《エンジンブレーキ》

スロットルグリップをもどすとエンジンブレーキがききますが、さらに強力なブレーキを必要とするときは3速、2速……とシフトダウンを行います。

長い下り坂、急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

注意

- ・急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因となります。22ページの表にしたがって行ってください。

注意事項

- ・運転者の身を守るヘルメットを必ず着用しましょう。手袋・眼鏡など着用するよう心がけてください。
- ・運転を阻害するような服装はやめましょう。ブレーキレバーやクラッチレバーに引掛かったり、ドライブチェーンなどの回転部分に巻き込まれたりして危険です。
- ・ブレーキ操作やチェンジ操作に支障をきたすようなはきものはやめましょう。
- ・乗車するときは、ドライバは両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。
- ・急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。
- ・荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。積載するときは、“積み過ぎない”、“荷物を固定する”など十分注意し、安全に走行してください。
- ・エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラの一部が熱くなっています。直接触れないでください。
- ・車は水平な場所に駐車しましょう。坂道、砂利道、でこぼこな所では、サイドスタンドが不安定になり転倒するおそれがあります。
- ・車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。たとえば、フロントクッションに泥やほこりがついたまま走行すると、オイルシールやパイプを傷つけてオイル洩れの原因になることがあるからです。
- ・洗車時、マフラに水を入れしないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良などの原因になることがあります。
- ・車にワックスをかけるとき、塗装部をコンパウンドワックスなどで強く磨くと塗膜が薄くなったり色むらが生じる場合がありますのでご注意ください。

お車をご使用のかたの安全と車の事故を未然に防ぐため、道路運送車両法に準じて、1日1回の**運行前点検**と**6・12か月ごとの定期点検**を設けてあります。必ず実施して下さい。

点検項目の詳細は、別冊「**整備手帳**」をご覧ください。

点検整備数値は、62ページのサービスデータをご参照ください。

異常が認められた場合は、ご使用のかたご自身またはホンダ販売店で必ず整備をしてください。

■ 運行前点検・定期点検

■運行前点検

運行前点検は、車を使用する人が、1日1回運転する前に実施するよう法令により義務づけられています。

- 前日の異状箇所
- ブレーキペダルの踏みしろ、きき具合
- タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異状な摩耗、金属片、石などの異物
- タイヤの溝の深さ
- エンジンオイル量
- 燃料の量
- 灯火装置、方向指示器
- 後写鏡の写影
- 自動車登録番号標の汚れ、損傷
- 反射器の汚れ、損傷

注意事項

点検するときは安全に十分注意してください。

- ・場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- ・エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。
- ・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。
- ・走行して点検する必要があるときは、周囲の交通事情に十分注意してください。

●前日の異状箇所の点検

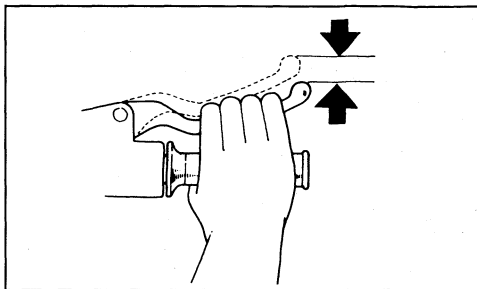
運行に支障がないかを点検します。

●ブレーキの点検

《ブレーキペダルの踏みしろ、きき具合》

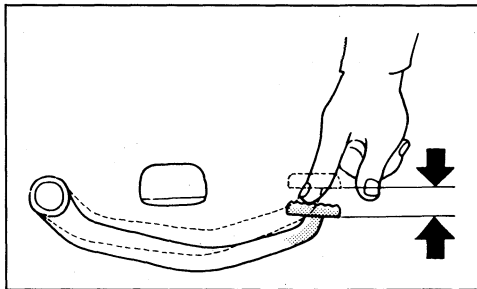
●ブレーキレバーの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びが適当であることを点検します。ブレーキレバーを強く引いたとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。



●ブレーキペダルの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びが適当であることを点検します。ブレーキペダルの遊びが適当でないときや、踏みごたえがやわらかく感じられる場合は異常です。

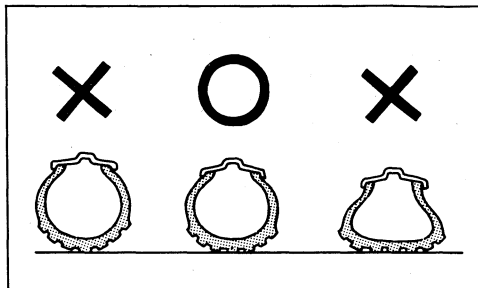


●タイヤの点検

《空気圧の点検》

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。

タイヤ接地部のたわみ状態が異常な場合は、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

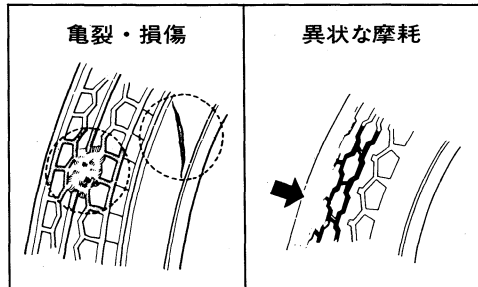


《亀裂・損傷》

タイヤの接地面や側面に、著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

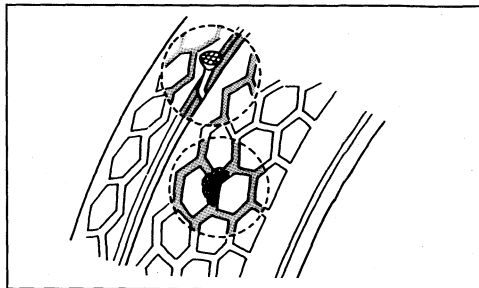
《異状な摩耗》

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。



《金属片、石などの異物》

タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



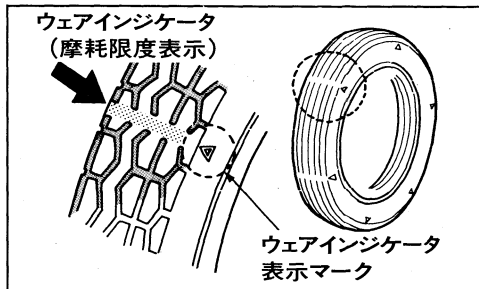
《溝の深さ》

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（摩耗限度表示）により点検します。

ウェアインジケータがあらわれたらタイヤを交換してください。

注意

- ・ 空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。



●エンジンオイル量の点検

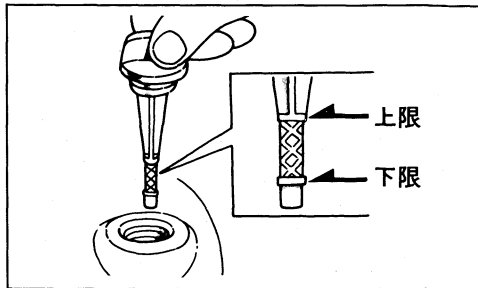
- ・平坦地でエンジンを2～3分間アイドリング回転させ、エンジン停止2～3分後に車体を垂直にし、エンジンオイル量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。
- ・オイルレベルゲージをねじ込まず差し込んで点検してください。
- ・オイル量が下限に近かったら、上限まで補給してください。
エンジンオイルの補給は、55ページ参照。

注意

- ・エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラーやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。

●燃料の量の点検

ガソリンが目的地まで走行するのに十分な量であるかを点検します。



●灯火装置，方向指示器の点検

《点滅具合，汚れ，損傷》

ヘッドライト，ポジションランプ，テールライト／ストップランプ，ウインカランプのスイッチを作動させて，点灯または点滅するかを点検します。

このとき，レンズに汚れや損傷がないかを点検します。

●後写鏡の写影の点検

シートに座って，正しい運転姿勢をとったとき，後方がバックミラーに正しく写るかを確認し，点検します。

●自動車登録番号標(ナンバープレート)の汚れ，損傷の点検

ナンバープレートに汚れや損傷がないかを点検します。また，確実に取付いているか手でさわって確認し，点検します。

●反射器の汚れ，損傷の点検

反射器に汚れ，損傷がないかを点検します。

■ 6 か月点検

定期点検は、車を使用する人が定期的に行う点検で、法令によって定められています。

自家用2輪自動車については、6か月点検と12か月点検の2種類があります。

・6か月点検項目には、㊸と㊹の項目があります。別冊「整備手帳」の点検整備方式の一覧表を参照してください。ここでは㊸の項目とメーカー推奨項目の一部を選んで点検要領を説明してあります。

㊸……点検を行うに当たって、車の構造、装置に関する基礎的な技術知識を有する人であれば、自らでも実施可能なもの。

㊹……点検を行うに当たって、専門的な技術知識を必要とするもの、専門的な機械、工具や測定器具を必要とするもの、装置または部品の分解、取外しを伴うもの。

・点検結果は、所定の記録用紙に記録する必要があります。ご自身でできない項目については、ホンダ販売店で点検を受け記録してください。

- ・点検結果の記録用紙は、別冊整備手帳に綴込まれています。なお、記録は1か年保存してください。
- ・メーカー推奨項目の点検結果は、点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

注意事項

点検するときは安全に十分注意してください。

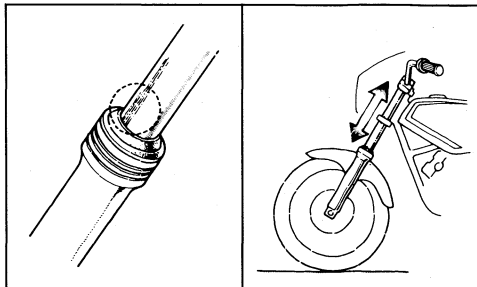
- ・場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- ・エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。
- ・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。
- ・走行して点検する必要があるときは、周囲の交通事情に十分注意してください。

●かじ取りホークの点検

《損傷》

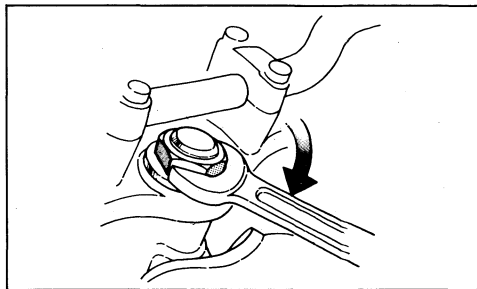
フロントホーク(かじ取りホーク)に損傷がないか目視により点検します。

また、ハンドルを上下に動かし、フロントホークの曲りによる異音がないかを点検します。



《ホークスピンドルの取付け状態》

ステアリングステム(ホークスピンドル)の締付けナット(ステムナット)にゆるみがないかをスパナなどの工具により点検します。



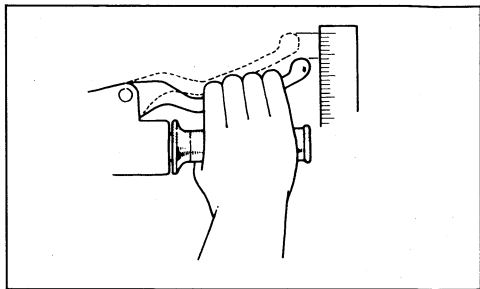
●ブレーキの点検

《ブレーキペダルの遊び》

●ブレーキレバーの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。

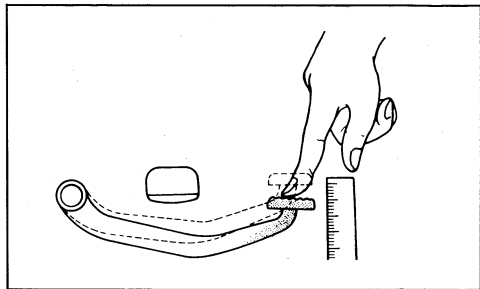
ブレーキレバーを強く引いたとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。



●ブレーキペダルの遊び

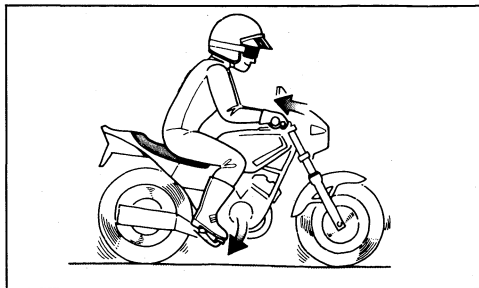
抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダルの先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。

遊びの調整は、47ページ参照。



《ブレーキのきき具合》

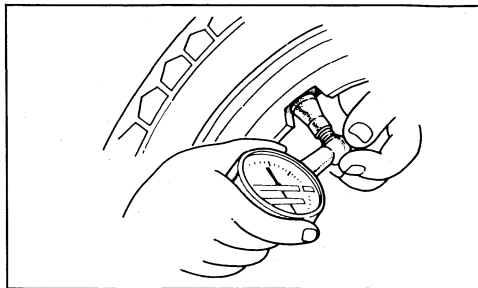
乾燥した路面で、低速走行して前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させ、きき具合が十分であるかを点検します。



●タイヤの点検

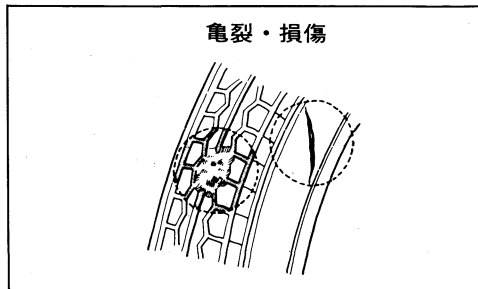
《タイヤの空気圧》

タイヤの空気圧をタイヤゲージで点検します。
空気圧は、タイヤが冷えているときに測定してください。



《亀裂と損傷》

タイヤの接地面や側面に亀裂や損傷がないかを
目視により点検します。



《溝の深さと異常な摩耗》

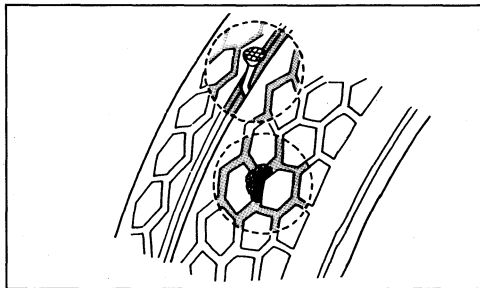
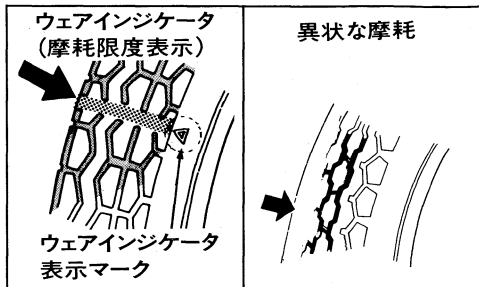
- ・溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ(摩耗限度表示)により点検します。
- ・ウェアインジケータがあらわれたらタイヤを交換してください。
- ・タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

《金属片、石などの異物》

タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

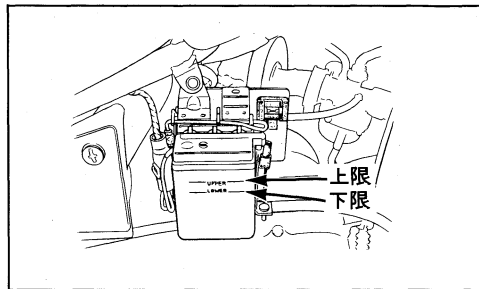
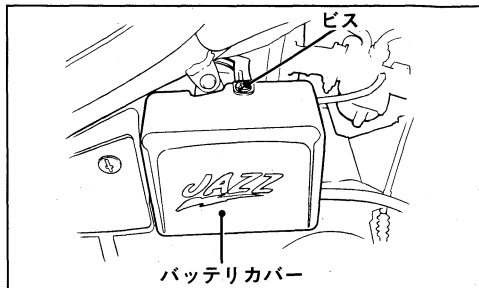
注意

- ・空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。



● バッテリー液量の点検

- ・ビスを外し、バッテリーカバーを開けます。
 - ・車体を垂直にし、バッテリー各槽の液面が上限と下限の範囲にあるかを点検します。液面が下限に近かったら、蒸留水を補給してください。
- バッテリー液の補給は、49—50ページ参照。



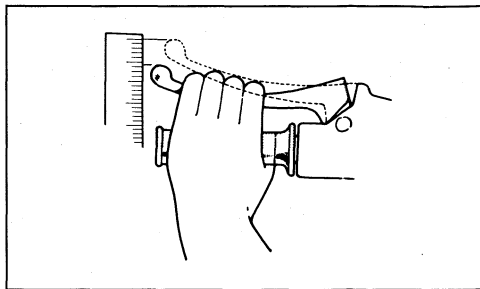
●クラッチの点検

《レバーの遊び》

抵抗を感じるまで、手でクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。

《クラッチの作用》

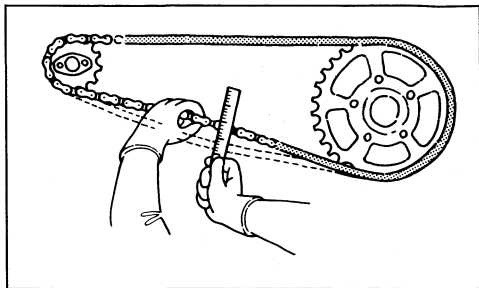
- ・アイドリング状態で、クラッチレバーをいっぱいに引いたとき異音がしないか、異常に重くないかを点検します。
- ・クラッチレバーを徐々に離して発進したとき滑りがなく、接続が滑らかであるかを点検します。



●ドライブチェーンの点検

《ドライブチェーンのたるみ》

- ・ スタンドを立て、前後スプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンのたるみが規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。
また、車体を前後に動かしてチェーンが滑らかに回転するかを点検します。チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は異常です。
- ・ チェーンの給油状態を点検します。給油を必要とする場合は、57ページを参照してください。



●エアクリーナエレメントの点検

エアクリーナエレメントを取出し、汚れによる詰りなどがいないかを目視により点検します。

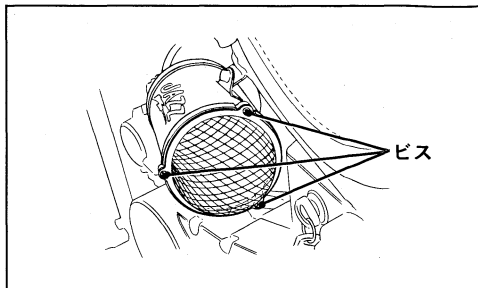
《取外し》

1. ビスを外し、エアクリーナカバーを取外します。
2. エアクリーナエレメントを取外します。

《取付け》

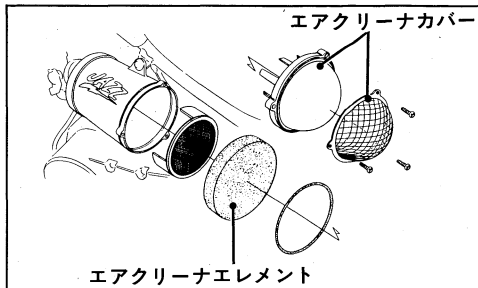
取付けは、取外しの逆手順で行います。

清掃の方法は、54ページ参照。



注意

- ・エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸ってシリンダの摩耗や出力低下を起し、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。
- ・また、洗車時エアクリーナに水を入れないうご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。



●エンジンオイルの点検

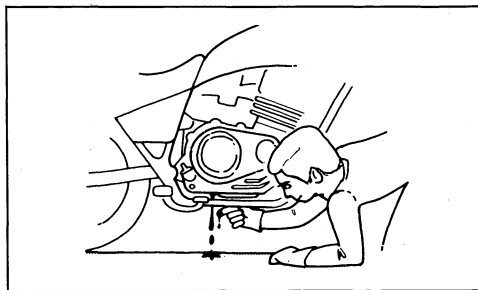
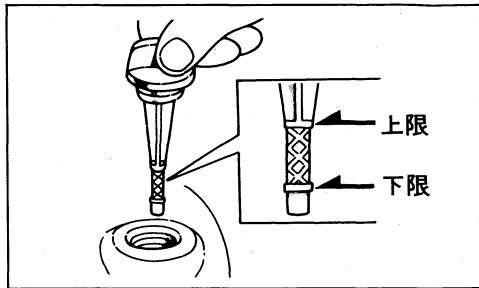
《汚れ》《オイルの量》

- ・平坦地でエンジン停止2～3分後に車体を垂直にし、エンジンオイル量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。
- ・オイルレベルゲージをねじ込まず差し込んで点検してください。
- ・オイルの汚れの点検を同時に行います。
- ・オイル量が下限に近かったら、上限まで補給してください。

エンジンオイルの補給は、55ページ参照。

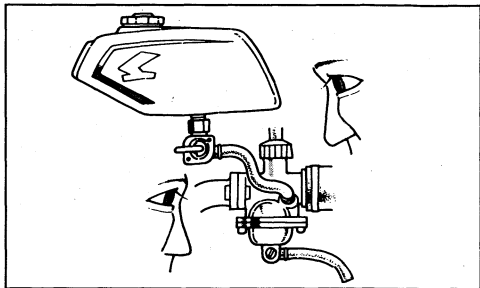
《油漏れ》

シリンダ、クランクケースなどから、オイルが漏れていないかを点検します。



●燃料漏れの点検

フューエルコック、ガソリタンク、ホース、パイプ、キャブレターなどからガソリン漏れがないかを点検します。



●灯火装置，方向指示器の作用の点検

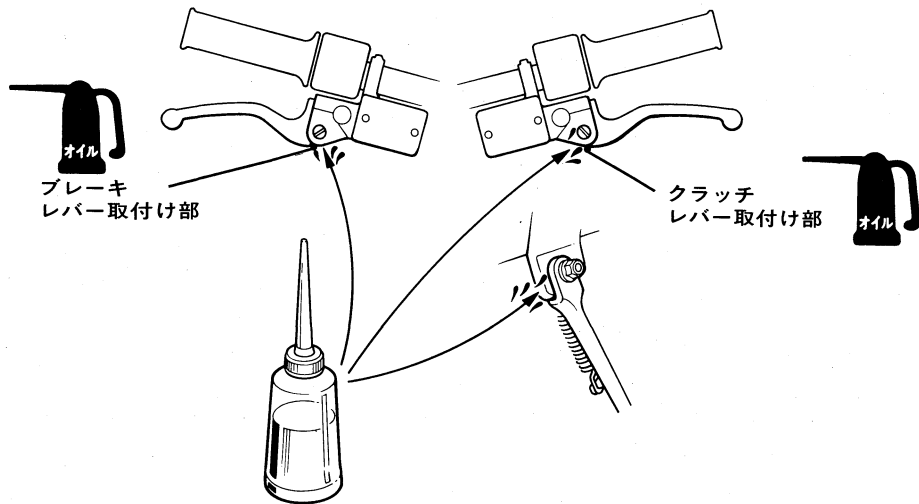
- ・ヘッドライト，ストップランプおよびテールランプのスイッチを作動させ点灯具合を点検します。

また，ヘッドライトの明るさや，照射方向に異常がないかを壁面にあてるなどして点検します。

- ・左右のウインカを作動させ，毎分60～120回の一定の周期で点滅するかを点検します。
- ・ヘッドライト，テールランプ，ストップランプ，ウインカのレンズに変色，損傷がないか，また，取付けにゆるみがないかを点検します。

● シヤシ各部の給油脂状態

シヤシ各部の給油脂状態が十分であるかを目視などにより点検します。



■簡単な整備

ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換などの整備が必要になった場合、通常行われることが多いものの代表例について、その実施方法を説明してあります。

— 注意事項 —

整備するときは安全に十分注意してください。

- ・ 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- ・ 適切な工具を使用してください。
- ・ 整備はエンジンを停止した状態で行ってください。
- ・ エンジン停止直後の整備は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。

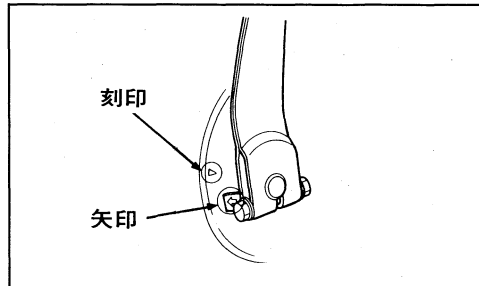
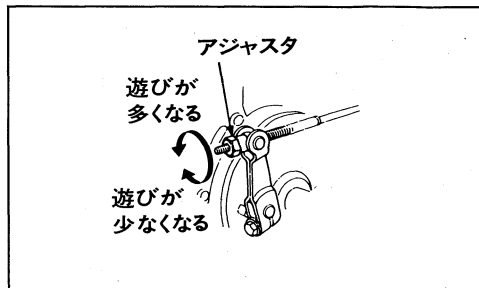
●ブレーキペダルの遊びの調整

後輪ブレーキアーム部のアジャスタにより遊びを調整します。

・調整はアジャスタを回して行います。
調整後は、ブレーキペダルを手で抵抗を感じるまで押し、ペダル先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで確認します。

注意

- ・ブレーキペダルをいっばいに押して、ブレーキアームの矢印とブレーキパネルの刻印が一致する場合は、ブレーキシューの使用限界です。



●クラッチレバーの遊びの調整

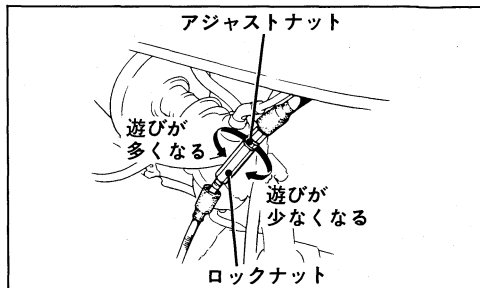
クラッチケーブルのアジャスタにより遊びを調整します。

- ・調整は、ロックナットをゆるめ、アジャストナットで行います。
- ・調整後、ロックナットを締付けます。

調整後、クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで確認します。

注意

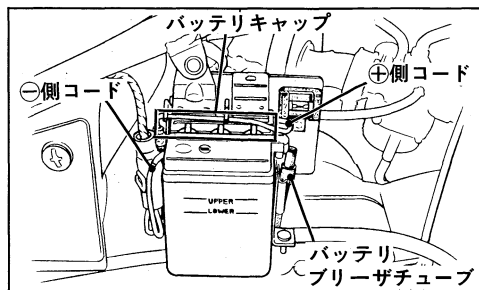
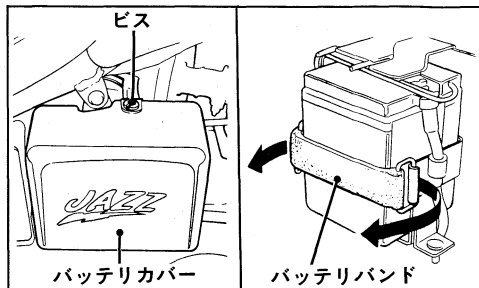
- ・調整後、エンジンをかけチェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出し等がないか確認してください。



● バッテリー液の補給

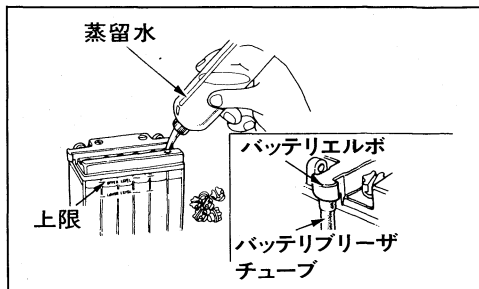
バッテリー液が不足している場合は、次の手順で蒸留水を補給します。

1. ビスを外し、バッテリーカバーを開けます。
2. バッテリーブリーザチューブをバッテリーエルボから抜きます。
3. バッテリーバンドを外します。
4. ⊖(マイナス)側コードを外し、次に⊕(プラス)側コードの接続を外します。
5. バッテリーを取出し、バッテリーキャップを外した後、上限まで蒸留水を補給します。
6. 補給後は、バッテリーキャップを確実に締めバッテリーを取付けます。このとき、必ず⊕側コードを先に取付け、⊖側を次に取付けます。



注意

- ・バッテリーを取扱うときは火気を近づけないでください。
- ・バッテリーホルダカバーを開けたときは⊕側コードを金属部に接触させないでください。
- ・バッテリー取付け後は、ブリーザチューブがバッテリーエルボにしっかりと結合されているか確認してください。ブリーザチューブがかんだりつまっていると、バッテリーの内圧が高くなりバッテリーケースが破損することがあります。車に貼ってあるラベルに従い確認してください。
- ・蒸留水を入れすぎると、こぼれて腐蝕の原因となります。
- ・バッテリー液は、希硫酸で目や皮膚を侵しますので十分注意してください。万一付着したときはすぐ多量の水で、少なくとも5分間以上洗浄して専門医の診察を受けてください。
- ・バッテリーとバッテリーカバーを取付けるときは、コード類のかみ込みがないように注意してください。



● バッテリターミナル部の清掃

ターミナル部に汚れや腐蝕がある場合は、バッテリーを取外して清掃します。

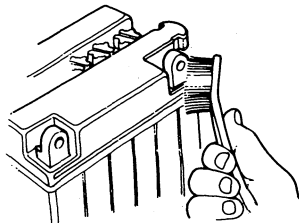
- ・ターミナル部が腐蝕して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いで拭きます。
- ・ターミナル部の腐蝕が著しいものは、バッテリーコードを外し、ワイヤブラシまたはサンドペーパーで磨きます。
- ・清掃後、バッテリーコードを取付け、ターミナル部にグリースを薄く塗っておきます。

注意

- ・バッテリーを取扱うときは火気を近づけないでください。
- ・バッテリーホルダカバーを開いたときは⊕側コードを金属部に接触させないでください。
- ・ターミナルからバッテリーコードを取外す場合は、メインスイッチをOFFにし、必ず⊖側バッテリーコードから外してください。取付けの場合は、⊕側コードを先に取付け、次に⊖側コードを取付けてください。ターミナル部にゆるみが生じない

ように確実にボルト／ナットを締付けてください。

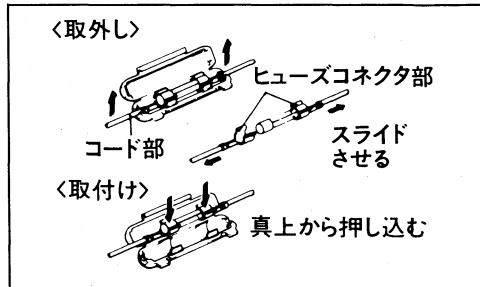
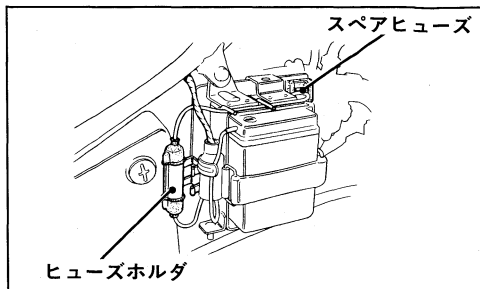
- ・バッテリー内に異物を混入させないため、清掃時は、バッテリーキャップを取外さないでください。
- ・バッテリー取付け後は、ブリーザチューブがバッテリーエルボにしっかり結合されているか確認してください。ブリーザチューブがかんだりつまっていると、バッテリーの内圧が高くなりバッテリーケースが破損することがあります。車に貼ってあるラベルに従い確認してください。



●ヒューズの交換

メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないか点検します。

- ・ヒューズは、バッテリー付近のヒューズホルダにセットされています。
- ・ヒューズの取外しはヒューズホルダを開けて、ヒューズコード両端を持って引き上げ、ヒューズコネクタ部をスライドさせて行ってください。
- ・交換してもすぐにヒューズが切れる場合は異常です。



注意

・取外し時

ホルダをひろげないように注意して取外してください。

・取付け時

ヒューズをホルダ部に取付け後、ヒューズが容易にスライド方向（横方向）に動かないか確認してください。ヒューズが容易に動くと発熱し思わぬ事故を招くことがあります。

- ・指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。
- ・電装品類（ライト、計器など）を取付ける時は車種毎に決められている「ホンダアクセサリー」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。
- ・洗車時ヒューズホルダのまわりから水を強く吹きつけることは避けてください。

●エアクリーナエレメントの清掃, 交換

《清掃》

1. エアクリーナエレメントを取外します。
2. エアクリーナエレメントをきれいな洗油で洗い、完全に乾燥させます。
3. きれいなオイルに浸し、固くしぼって取付けます。

オイル：ギヤオイル(#80~#90)

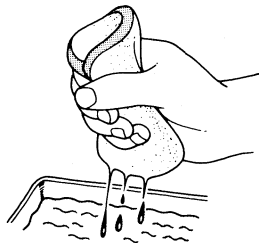
《交換》

交換は41ページ《取外し》《取付け》の手順に従って行ってください。

注意

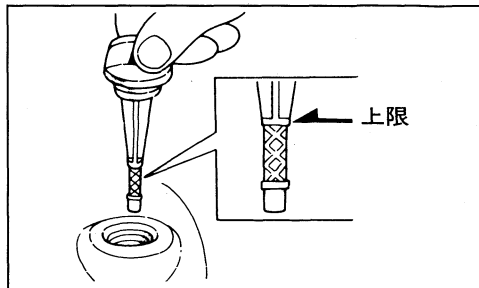
- ・ガソリンや引火点の低い洗浄剤は、非常に熱えやすいので、エレメントの清掃には、使用しないでください。
- ・エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸って、シリンダの摩耗や出力低下を起し、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。

- ・また、洗車時エアクリーナに水を入れないようご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。



●エンジンオイルの補給

1. 平坦地でエンジンを2～3分間アイドリングで回します。
2. エンジン停止2～3分後にオイルレベルゲージを外します。
3. 車体を垂直にし、オイルレベルゲージをねじこまずに差し込み、ゲージで確認しながらオイルを上限まで補給します。
4. オイルレベルゲージを確実に取付けます。

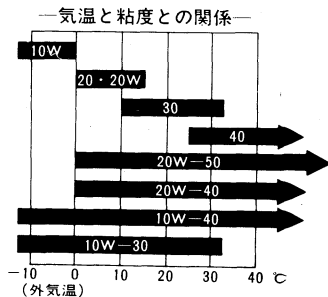


《推奨オイル》

“ホンダ純正オイル ウルトラ-U(4サイクル二輪車用)”またはAPI SE級の10W-30のエンジンオイル。

《交換時期》

初回：1,000km、以後：3,000kmごとです。



注意

- ・補給するときは、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。
- ・オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。
- ・銘柄やグレードのちがうオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因になることがあります。

●ドライブチェーンの給油

・車体を前後に少しづつ動かしてはスタンドを立て、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れをブラシなどで落します。

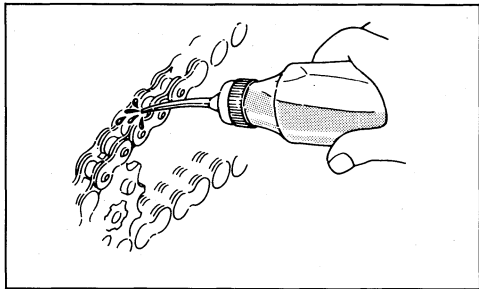
汚れを落した後、給油を行います。オイルがチェーン各部によくゆきわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。

《指定オイル》

“ホンダ純正チェーンオイル”またはギヤオイル
(#80～#90)

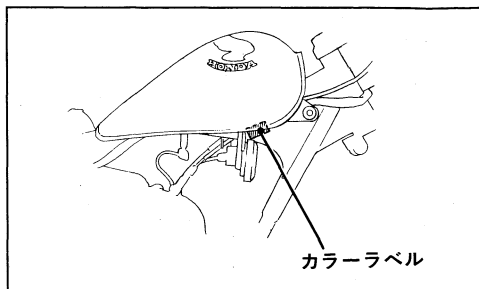
注意

・チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り、汚しますのでオイルをつけ過ぎないように注意してください。



■色物部品をご注文のとき

色物部品をご注文のときは、フレームボディに貼ってあるカラーラベルのモデル名、カラー、コードもお知らせください。



■エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- ・ガソリタンクにガソリンはありますか？
- ・エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか？
- ・ヒューズは切れていませんか？

故障の修理

- ・ホンダ販売店にお申しつけください。
- ・むやみに修理しないで、早くホンダ販売店で点検整備をしてもらうことが、お車を長持ちさせる秘けつです。

■主要諸元

型	式	A-AC09		
長	さ	1.910m		
	幅	0.775m		
高	さ	0.995m		
軸	距	1.325m		
総	排	気	量	
			0.049 ℓ	
車	両	重	量	
			83kg	
乗	車	定	員	
			1人	
タ	イ	ヤ	前 輪	2.50-16-4 PR
			後 輪	4.50-12-2 PR
最	低	地	上	高
				0.135m
燃	料	消	費	率
				110.5km/ℓ (車速30km/h)
制	動	停	止	距
				離
				3.5m(初速20km/h)
最	小	回	転	半
				徑
				2.1m
圧	縮		比	
				10.0
圧	縮	圧	力	
				14.0kg/cm ² -1000rpm
最	高	出	力	
				4.0PS/7500rpm
最	大	トル	ク	
				0.43kg-m/6000rpm

エンジンオイル量	0.8 ℓ	
燃料タンク量	6.0 ℓ	
点火形式	CDI式マグネット点火	
点火時期	BTDC27°/1700rpm	
点火プラグ ()内は標準プラグ	NGK	C5HA, (C6HA), C7HA
	ND	U16FS-L, (U20FS-L), U22FS-L
蓄電池 (バッテリー)	6 V—4 Ah	
機関から変速機までの減速比	4.312	
クラッチ形式	湿式単板コイルスプリング	
変速機形式	常時嚙合式	
変速機操作方法	左足動式	
変速比	1 速	3.272
	2 速	1.937
	3 速	1.350
	4 速	1.090
第一減速比 (チェーン)	3.071	

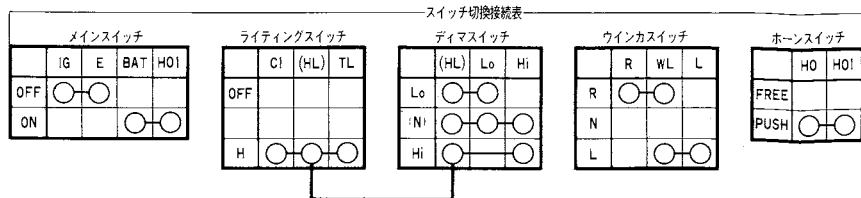
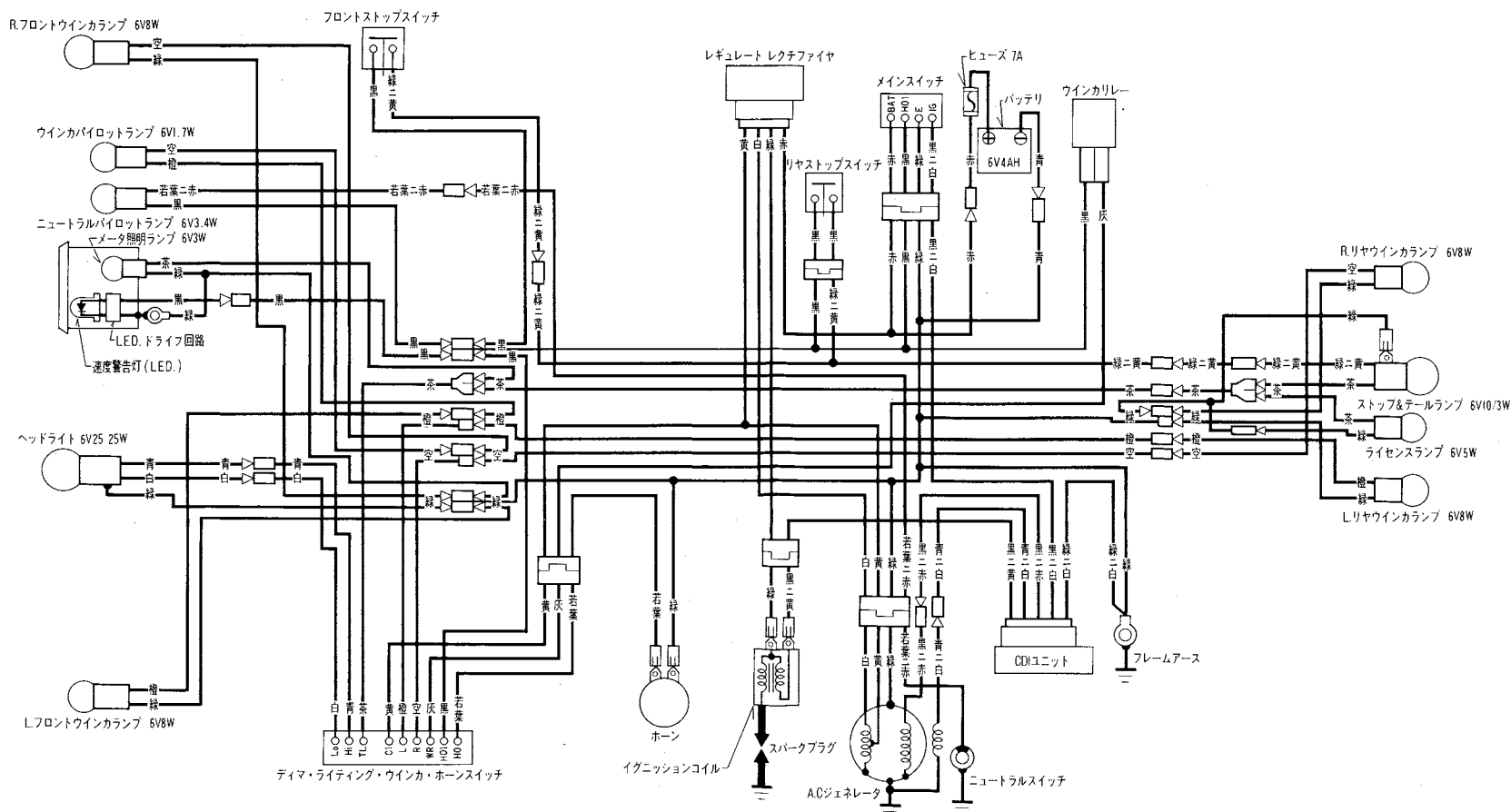
サービスデータ

ブレーキレバーの遊び		10~20mm	
ブレーキペダルの遊び		20~30mm	
タイヤ空気圧		前輪	後輪
		1.50kg/cm ²	1.50kg/cm ²
エンジンオイルの量	全容量	0.8ℓ	
	オイル交換時	0.6ℓ	
クラッチレバーの遊び		10~20mm	
ドライブチェーンのたるみ		10~20mm	
ヒューズ		7 A	
点火プラグの点火すきま		0.6~0.7mm	
エアクリーナエレメント	形式	ウレタンフォーム式	

メ モ

メ モ

■ 配線図



0030Z-GS3-0000